

令和3年第4回京丹波町議会定例会
所 信 表 明

令和3年12月8日

師走を迎えまして、何かと忙しい昨今でございます。

本日ここに、令和3年第4回京丹波町議会定例会をお願いいたしましたところ、議員各位におかれましては、公私何かとご多忙の中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

定例会の開会にあたり、私の町長就任に際しまして、町政運営の所信の一端を申し述べる機会をいただきますことは、誠に光栄であり心よりお礼を申し上げます。

この度の町長選挙におきまして、町民の皆様の厳粛な負託を受け、町政運営に当たらせていただきますことは、これからの京丹波町を創っていく上で、また社会経済情勢が厳しさを増す中で、町政をお預かりする責任の重さに、改めて身の引き締まる思いであります。

私は、合併後のこの町をあらゆる角度から見続けてまいりました。そこで、一番の課題は、やはり少子高齢化の問題であると感じております。特に人口減少が著しく活力の低下が懸念されることから、それに歯止めをかける対策が急務であると考えております。また、後継者不足による荒廃農地の増大が顕著であり、集落の維持すら危ぶまれる、先が見通せない状況にあります。

今回の選挙を通じて多くの町民の方とお出会いし、お話しする機会を得ることができ、町民の方々の思いをお伺いすることができました。「今のままではいけない。何とかしなければだめだ。」と

いったお声をお聴かせいただく中で、「食のまちづくり」や「教育投資のまちづくり」など、懸命に訴えてまいりました。私にお寄せいただいたご期待には大変大きなものがあると痛感しており、皆様から頂いたご意見等にはしっかりとお応えしていかなければならないと考えております。

今後、私は、町民の皆様からのお声を大切にしながら、伸ばすべき点、改善すべき点等を整理し、まちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。議員各位並びに町民の皆様の深いご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

それでは、私の任期中におけます町政運営の所信の一端を申し上げます。

私は、今回の選挙で掲げておりました私の理念である「みんなで 元気 希望 笑顔のあふれる京丹波町に」の実現に向けて邁進してまいりたいと考えております。

幸せで健やかに安心して暮らせる町づくりを進める上において、「元気」、「希望」、「笑顔」、この3つは不可欠であり、どれが欠けても成しえることができません。

いつも町民の皆様が、元気で、希望に満ちあふれ、笑顔で過ごせる、そんなまちづくりを目指し、3つの柱を掲げて取り組んでまいります。

まず、1つ目といたしまして「健やかで幸せな食の町」であります。

京丹波町は、南北に長い京都府の中央部に位置し交通の要衝でもあり、豊かな農林産物を産出する美しい自然の宝庫でもあります。特に、分水嶺に位置する本町には、水がきれいで自然豊かな環境の中で作られる黒大豆、丹波くり、丹波大納言や京野菜など、

数多くのブランド産品があります。とりわけ「丹波」という名前は、一番のブランドであると考えており、農業と食品産業との連携により、「食のまち京丹波」のイメージを確立してまいります。このように本町には多くの魅力があり、また多くの可能性を秘めた地域であります。これまで以上に地域の特性を活かしたまちづくりを進めるとともに、企業や事業所等の誘致を図ることで、雇用を創出し、急激な人口減少の流れを緩やかにしてまいりたいと考えております。

また、地域医療の機能充実に向けても、力を注いでまいりたいと考えております。京丹波町病院の経営基盤を強固なものにし、「私たちの町の私たちの病院」として、地域密着型の病院づくりを目指すとともに、医療体制のさらなる構築と予防事業の推進や検診等の充実を図り、早期発見、早期治療につなげてまいりたいと考えております。

町民の皆様が、健やかで幸せに日々の生活を送っていただくこと、また、健康に過ごしていただくことが最大のまちづくりの要素であると考えております。

依然として、全世界に猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症につきましては、国内では、ワクチン接種と皆様方の日頃の予防対策へのご理解とご協力により、最近では新規感染者数も極めて減少しております。京都府におきましても、感染防止対策が緩和されたところではありますが、感染リスクが無くなったわけではございません。この冬に向け、いつ第6波がやって来るかわからない、まだまだ予断を許さない状況にあります。今後、3回目のワクチン接種も予定しておりますが、再び感染拡大を繰り返さないための警戒を続けながら、少しずつ日常生活や社会経済活動を進める「新たな日常」を継続することが必要であります。

もともと財政基盤が脆弱な本町にあって、新型コロナウイルスに関する財政需要が加わり一層厳しい状況にあると思っております。しかし、国や京都府とのパイプを一層太くし、財源の確保に最大限努力をするとともに、経費の節減や効率の良い投資など、健全な財政運営にしっかりと取り組み、新型コロナウイルスともうまく付き合いながら、安全で安心できる町づくりを推進してまいりたいと考えておりますので、町民の皆様をはじめ、議員各位には、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2つ目には「教育と子育ての町」であります。

全国的に少子化が進んでおりますが、本町においても例外でなく、昨年度の出生者数は、45人と大変厳しい状況にあります。

将来を担う子どもたちは、大切な国の宝であり、なんとかして少子化の流れをくい止めなければなりません。

そのためには、認定こども園を中心とした幼児教育や、小・中学校における教育環境を充実させ、学童保育については、保護者の皆様が安心して働ける子育て環境を整えてまいりたいと考えております。

また、「子どもを大切にすまち」を目指し、地域ぐるみの学校教育を推進してまいりたいと考えております。町民の皆様が、学校との関わりを深めていただき、郷土愛を育ていただくことで、将来にわたりUターン者等の増加が図れることなど、人材の確保につながるものと考えます。「人づくりはまちづくり」、「まちづくりは人づくり」であり、教育にしっかりと投資をしてまいりたいと考えます。

また、府立須知高等学校につきましても、支援を充実してまいりたいと考えております。町内において、保育所、幼稚園、義務教育を経て、高校での教育を受けられる環境を持続可能なものにす

るためには、いかに町外からの入学生を増やし、また町内生徒の町外流失を防ぐことが重要であると考えますが、議員各位をはじめ、様々な方からのご意見を賜りながら、歴史と伝統ある町内唯一の高校として、守り育てていく必要があると考えております。

3つ目には「人のふれあいを感じる町」であります。

まず、災害に強いまちを構築することが大切であると考えます。

近年、大型台風やゲリラ豪雨、また線状降水帯の発生などにより、大規模な自然災害が頻繁に発生しています。決して本町も災害とは無縁ではございません。面積のほとんどを山林が占め、多くの自然に囲まれている本町にあって、自然は心を癒し、生活を支えてくれる何物にも代えがたい素晴らしい財産である一方、たちまち豪雨により、美しい自然は変貌し、我々人間に容赦なく襲いかかります。住民の皆様には、自分の身は自分で守るという意識を持っていただくことが大切であります。そのためには、日頃から自然災害の恐ろしさを認識し、緊急時の対応に慣れていただくことで、落ち着いた行動が取れるよう、地元の消防団員、区、関係団体等の皆様と連携を図り、協力を得ながら住民避難訓練をはじめ、学習する機会づくりにも取り組んでまいります。

地域の人材育成につきましても、支援を図ってまいりたいと考えております。行政と町民の皆様が情報を共有し、地域とコミュニケーションをとることが何よりも大切です。また伝統や芸能、地域文化を元気づけるためにも、地域おこしの人材は不可欠であり、重要であると考えます。

人権に関しましては、人にやさしいまち、人と人との認め合い、みんながお互いに一生懸命応援し合うことができる、元気あふれるまちを目指してまいります。

今、本町に求められているのは、元気があって、笑顔があつて、

夢があるといった、人を元気にする原動力であり、それを創出するのが行政であります。常に町民に顔を向け、町民の皆様と行政との距離を縮めることが大切であり、町民の皆様寄り添い、信頼関係を築いてまいる所存でありますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

これら3つの柱を軸として、これからのまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますが、既に第2次総合計画をはじめ各種計画が策定されているところであり、これに基づく事業等も実施されているところでもあります。このため、要所、要所で検証を行ない、改善策の検討を加えながら着実に事業を進めてまいります。

以上、私の町政運営の所信を申し述べさせていただきました。

しかし、これらのまちづくり施策は私ひとりで到底成しえるものではございません。意思決定機関であります議会や町民の皆様のご意見を伺いながら、公約の実現に向け、職員と一丸となって緊張感をもち、元気と希望と笑顔のあふれる京丹波町のまちづくりに、皆様と一緒に取り組んでまいる所存でありますので、どうか議員各位並びに町民の皆様には今後の町政運営に格段のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、町長就任の所信表明とさせていただきます。